

東日本大震災における海上自衛隊の活動概要



24. 2. 19
防 衛 省

地震発生直後の海上自衛隊の動き

平成3月11日

14:46 東北地方太平洋沖地震発生

14:57 大湊航空基地からUH-60J救難ヘリコプター離陸

(地震発生から11分後)

15:00 大湊航空基地からSH-60J対潜哨戒ヘリコプター離陸

15:04 館山航空基地からUH-60J救難ヘリコプター離陸

15:08 監視飛行中のP-3C哨戒機を状況偵察に向かわせる

(地震発生から22分後)

15:08 大湊航空基地からSH-60J対潜哨戒ヘリコプター2機離陸

15:19 館山航空基地からSH-60K対潜哨戒ヘリコプター離陸

15:19 八戸航空基地からP-3C哨戒機離陸

15:35 厚木航空基地からP-3C哨戒機離陸

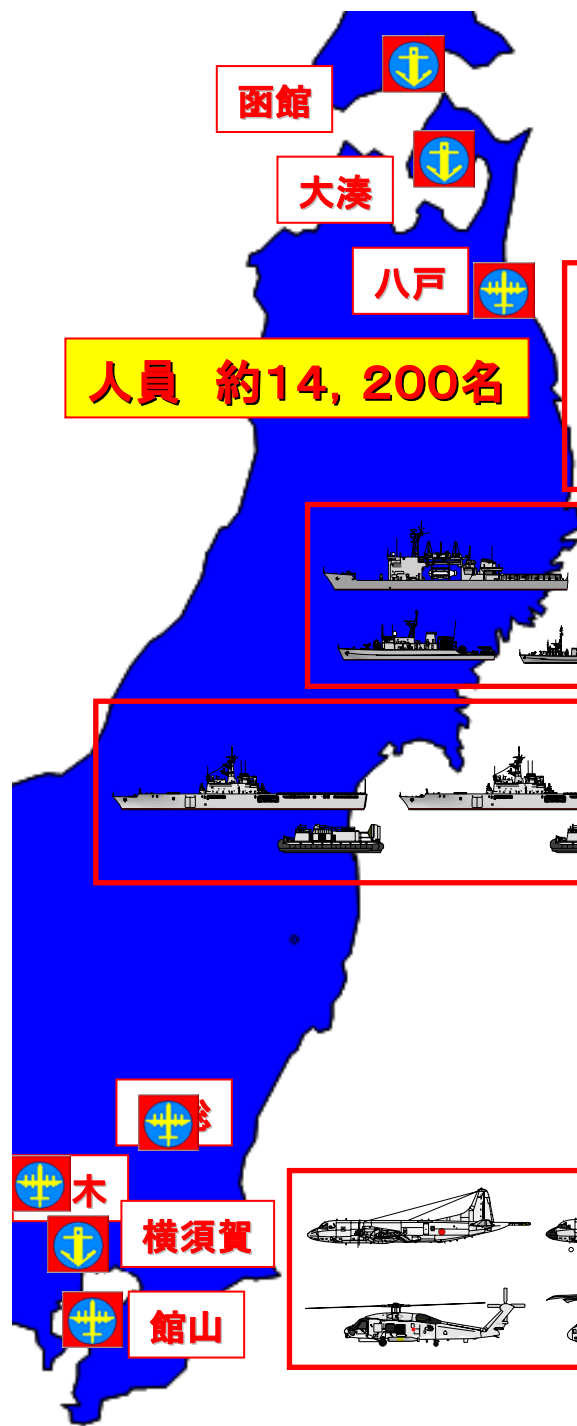
15:39 護衛艦「さわゆき」横須賀出港

(地震発生から53分後)

15:45 試験艦「あすか」横須賀出港

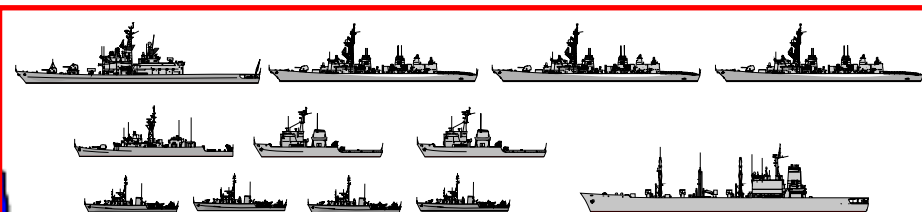
以降、各海上自衛隊基地から準備の整った艦艇が逐次出港、
翌12日までに約20隻の艦艇が現場において救助活動を開始。

13日には進出中も含め約60隻の艦艇の派遣を実施。

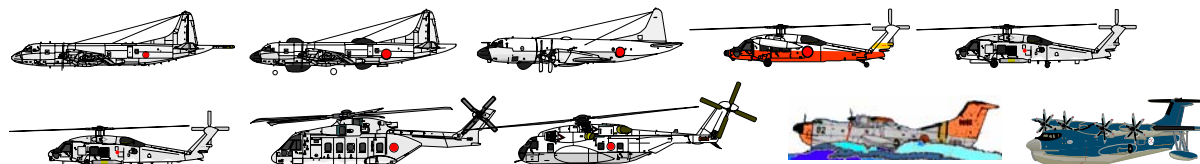
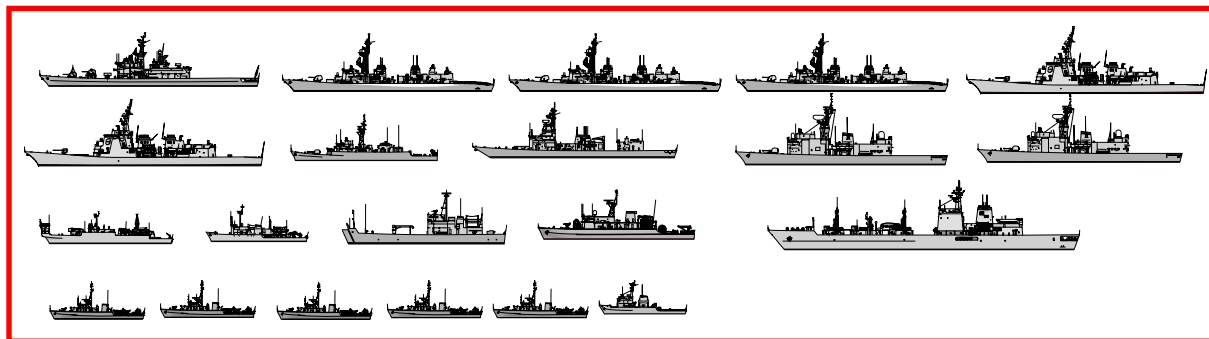
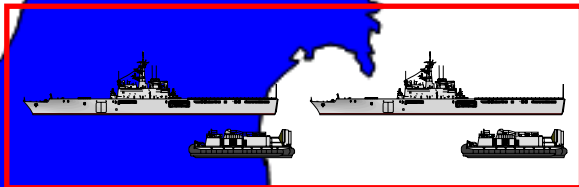
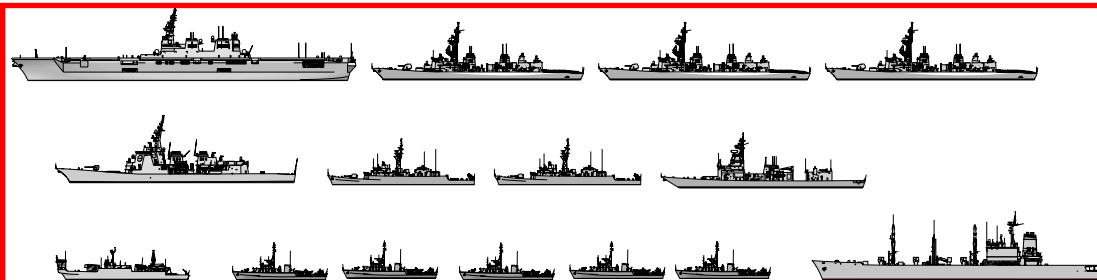


地震発生直後被災地周辺の派遣部隊配置概略図

人員 約14,200名



艦艇等 約60隻



航空機 約100機

東日本大震災における海上自衛隊の主な活動

・被災者救助活動

・行方不明者捜索

・救援物資輸送

・医療支援

・入浴支援

・清掃支援

・福島第一原発への対応

深海探索船「ちきゅう」から小学生等約80名を救助(八戸港)(3月12日)



探査船「ちきゅう」に救助のため着艦するUH-60J



無事救助され海自八戸航空基地に到着した小学生

イージス艦「ちょうかい」 洋上での救助活動(3月13日)



右正横 330m
生存者の状況

自宅屋根部上から、
旗つき竹ざおを振り、
護衛艦に呼び
かけている



イージス艦「ちょうかい」 洋上での救助活動(3月13日)



「ちょうかい」の内火艇による救助の様子



SH-60Kヘリコプターによる救助活動



行方不明者搜索活動



救援物資輸送



救援物資輸送



石巻港の港湾が使用不能であったことから、3月16日に、輸送艦「おおすみ」に搭載されたLCAC(ホバークラフト)により、物資を石巻の海岸に輸送



避難所における医療支援活動

避難所での健康相談



避難所での現地調査



避難所での診療



入浴支援活動(輸送艦内)



輸送艦へLCACによる被災者輸送



輸送艦内に設置した入浴施設



生活支援(清掃支援・小友小学校)



作業員岸壁から小学校へ移動



教室の清掃



倉庫排水作業(実施中)



倉庫排水作業(終了)

福島第1原発へのバージ船(水船)の曳航(3月27日)

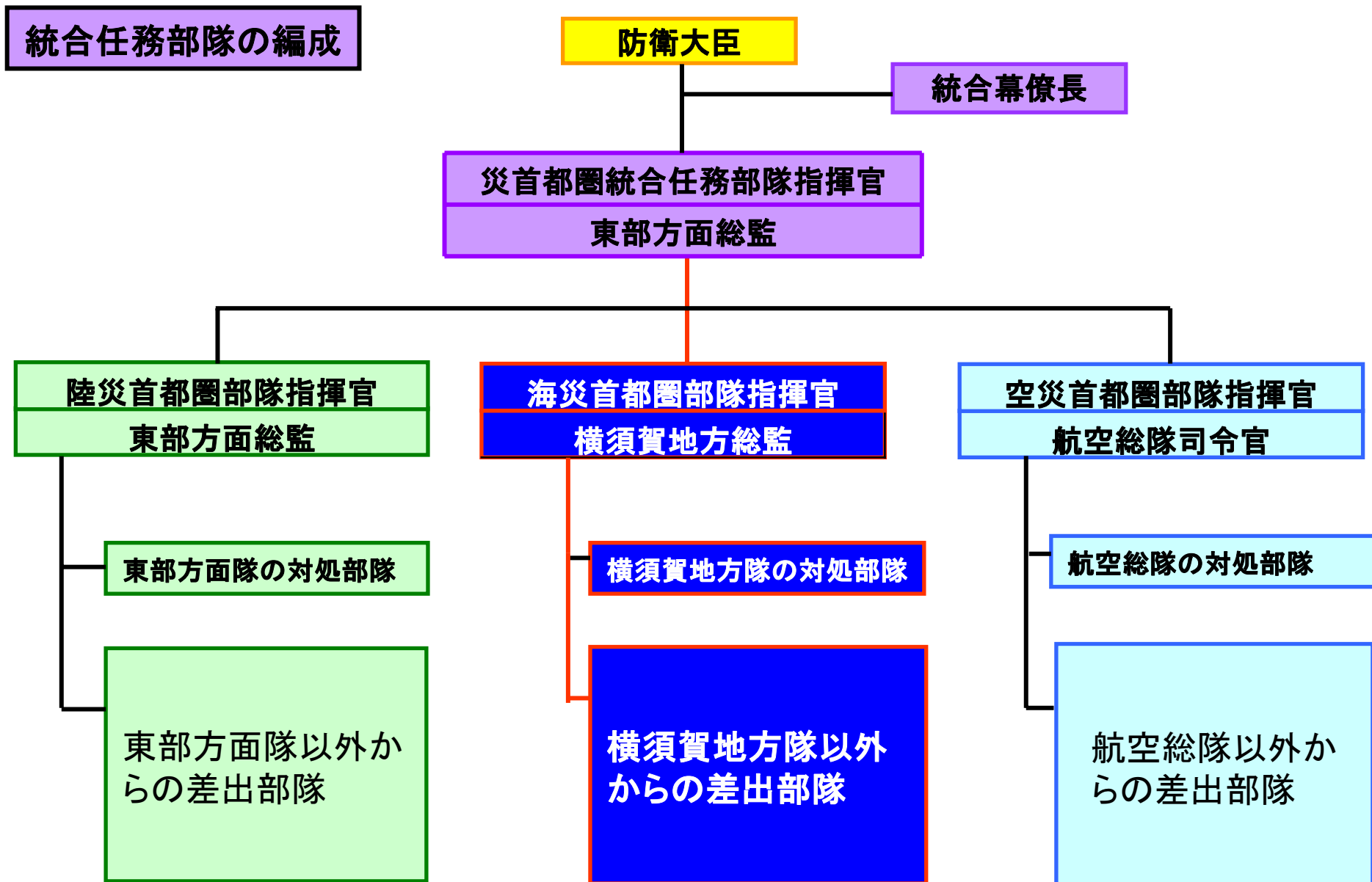


多用途支援艦「ひうち」によるバージ船の曳航



海上自衛隊による首都直下地震対処

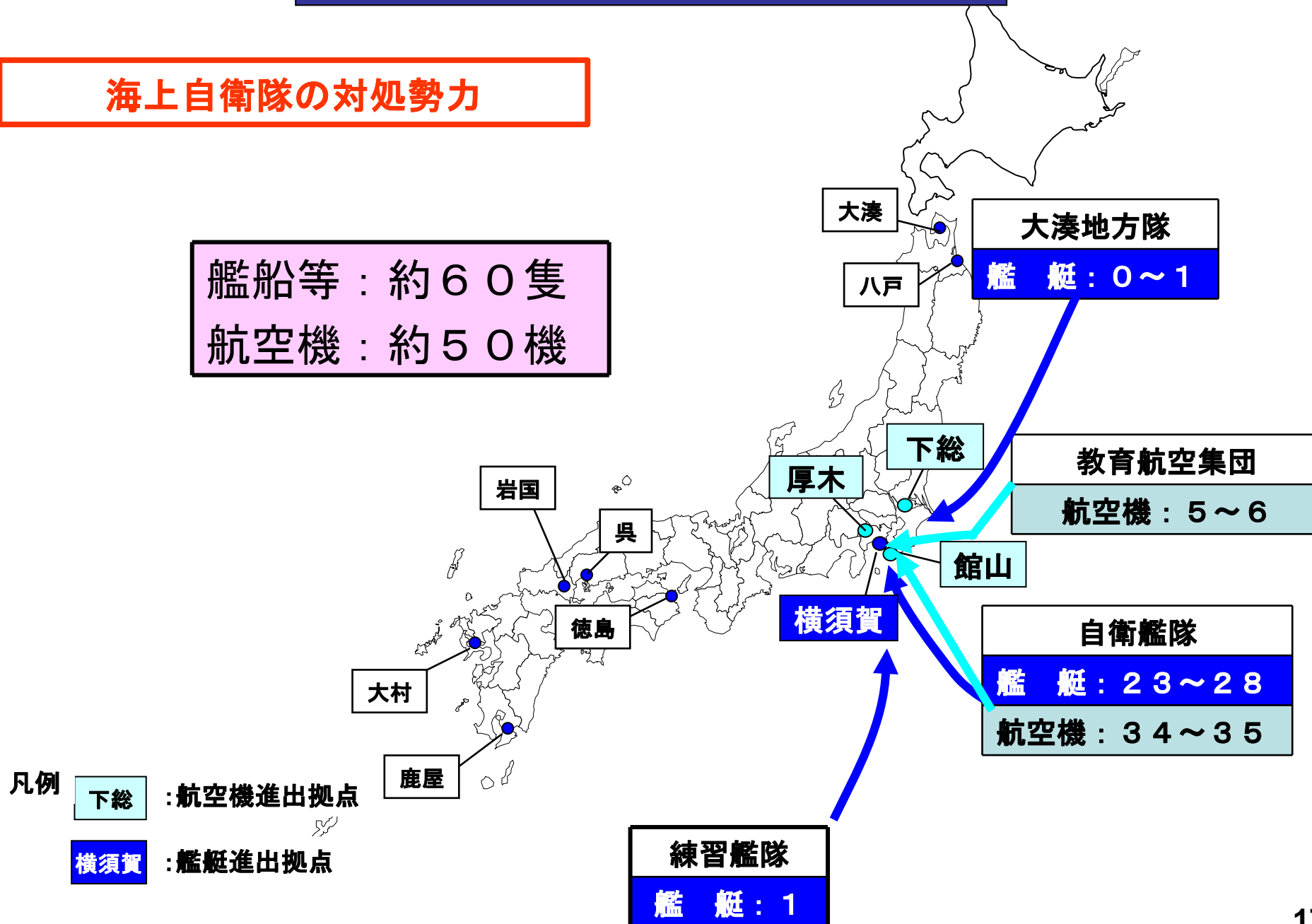
自衛隊首都直下地震対処計画の概要



自衛隊首都直下地震対処計画概要

海上自衛隊の対処勢力

艦船等：約60隻
航空機：約50機



海上自衛隊が実施する災害救援活動



23.3.16 SH-60Jによる灯油ドラム缶の輸送

海上自衛隊が実施する災害救援活動

○人命救助、医療支援

被災地域沿岸における救助、救護及び海上漂流者の
の搜索救助



海上自衛隊が実施する災害救援活動

○緊急輸送等

緊急輸送（救援物資、避難民等）、港湾水路啓開支援及び海上における排出油防除支援



海上自衛隊が実施する災害救援活動

○被災民に対する生活支援

糧食等支援、給水支援及び岸壁における入浴支援



海上自衛隊が実施する災害救援活動

○状況偵察及び港湾等の被害調査



首都直下地震発生時の部隊運用のイメージ①

小型艦艇、潜水員
による港湾調査

- ・ 艦艇、航空機による捜索救難
- ・ 漂流者救助

航空機による
被害情報収集

航空機による
被害情報収集

震源地から100NM圏内を
行動中の艦艇→即時救援活動

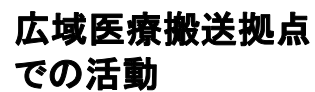
首都直下地震発生時の部隊運用のイメージ②



その他



糧食・医療品提供





米空母「ジョージ・ワシントン」

(終)

護衛艦「ひゅうが」